2023年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月14日

上 場 会 社 名　THECOO株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　4255　　URL　https://thecoo.co.jp/
代 表 者　（役職名）代表取締役CEO　（氏名）平良　真人
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO兼コーポレート本部長　（氏名）森　茂樹　(TEL)03-6420-0145
四半期報告書提出予定日　2023年11月14日　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2023年12月期第３四半期の業績（2023年１月１日～2023年９月30日）

（１）経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第３四半期	2,762	△9.5	△379	－	△389	－	△596	－
2022年12月期第３四半期	3,052	－	△170	－	△168	－	△204	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第３四半期	△287.48	－
2022年12月期第３四半期	△99.83	－

（注）１．2021年12月期第３四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2022年12月期第３四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
２．潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第３四半期	2,219	591	26.6
2022年12月期	3,004	1,188	39.5

（参考）自己資本　2023年12月期第３四半期　591百万円　2022年12月期　1,187百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2023年12月期	－	0.00	－		
2023年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2023年12月期の業績予想（2023年１月１日～2023年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,840	△10.3	△650	－	△660	－	△870	－	△419.45

（注）１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
２．第２四半期累計期間の業績予想は行っておりません。

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期３Ｑ	2,074,555株	2022年12月期	2,073,555株
②　期末自己株式数	2023年12月期３Ｑ	ー株	2022年12月期	ー株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期３Ｑ	2,074,277株	2022年12月期３Ｑ	2,052,611株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。機関投資家及び証券アナリスト向け説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Web形式にて2023年11月21日（火）に開催する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
第３四半期累計期間 …… 5
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（四半期貸借対照表関係） …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（セグメント情報等） …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、アフターコロナへの対応が更に進み、インバウンド需要も戻りつつある中、経済活動の正常化を背景に内需を中心に緩やかに回復しております。一方、世界的な金融引き締め等が続く中、原材料高騰による物価上昇や円安による我が国経済への更なる影響に対して十分に注意を払う必要があります。

また、OpenAI社のChatGPTをはじめとした生成AIなどの技術的進化は著しいものがあり、社会構造の変化に至る可能性のあることが予想されます。

当社の事業が関連する、音楽・エンターテインメント業界においては、デジタルへのシフトが進み、定額のサブスクリプションサービスやライブ配信の定着により、プラットフォームを使ったグローバルに向けたコンテンツ提供が可能となってきました。また、ライブ・イベント市場については、アフターコロナの状況においてファンやユーザーの行動変容が見られていますが、コロナ渦以前の市場環境への回復には時間を要すると見込まれています。

このような変化が多く、先の読みづらい社会・経済環境のもと、当社はビジョンに「『できっこない』に挑み続ける」を掲げ、SNS全盛期の現在、１対Nの時代から大きく変化した、N対Nの潮流をとらえ、Fan（ファン）+Icon（アイコン）（注）を起源とした完全会員制、完全有料制のファンコミュニティプラットフォームを提供するファンビジネスプラットフォーム事業と、祖業であるデジタルマーケティング事業の２つの事業を展開しております。

（注）アーティスト、インフルエンサー、タレント等、ファンコミュニティのオーナーであり、ファンの熱量の対象となるもの

ファンビジネスプラットフォーム事業の市場環境としては、株式会社矢野経済研究所の調査「ファンコミュニティビジネス2022」によると、月額課金型オンラインコミュニティプラットフォームサービス市場規模（会員費取扱高ベース）は、2020年度は24,800百万円（実績）、2021年度は41,500百万円（見込）（前期比167.3%）、2022年度は58,000百万円（前期比139.8%）と予測されております。新型コロナウイルスの影響を受け、オフラインでの活動を制限されたアーティストやクリエイター等が、新たな活動の場としてオンラインによる活動を求める機会が増加したことや、プラットフォーム上で全て一元管理できるサービスが増加し、コミュニティ開設者が芸能活動や創作活動に専念できるようになったことにより、年々市場が大きく成長しております。

また、当社が想定するファンクラブの市場規模（SAM：Service Available Market）は約１兆6,000億円であり、これは、総務省の「人口推計」と、矢野経済研究所が実施したインターネットアンケート調査「ファンの消費行動」に基づく１人当たりの消費額と潜在層を含めたファン数を基に、当社が想定するファンクラブ市場規模であります。

デジタルマーケティング事業の市場環境としては、株式会社電通の「2022年日本の広告費」によると、2022年のインターネット広告市場は３兆912億円、前年比111.3%と引き続き高い成長率で推移し、総広告費に占める媒体構成比は前年比3.7ポイント増の43.5%に達しており、当社としては今後も同市場は堅調に推移すると予想しております。また、サイバー・バズ／デジタルインファクト調べによる「国内インフルエンサーマーケティングの市場規模推計・予測　2020年－2027年」によると、2023年の国内インフルエンサーマーケティング市場は前年比120.5%の741億円が推計されており、2020年は332億円だったことから、ここ数年で大幅に市場規模が拡大しております。

両事業を合わせた市場規模（TAM：Total Addressabl e Market）は約５兆4,000億円と試算しており、その内訳は、当社想定のファンクラブ市場規模１兆6,000億円（上述）、ライブ・エンターテインメント市場6,295億円（ライブ・エンターテインメント白書より当社推計。ライブ・エンターテインメント市場規模＝音楽コンサートとステージでのパフォーマンスイベントのチケット推計販売額合計と定義）、デジタルコンテンツ市場２兆384億円（経済産業省「コンテンツの世界市場。日本市場の外観」2019年度市場規模より推計。1＄＝100円で試算。音楽（音楽ダウンロード、音楽ストリーミング、広告）、広告）映像（動画配信（SVOD）、動画配信（TVOD）、VRビデオ、広告（動画共有サイト等）、ゲーム（コンソールゲーム、/ PCゲーム（ダウンロード）、モバイルゲーム、VRアプリ、VRゲーム、広告）のデジタルコンテンツ市場の合計と定義）、ソーシャルメディア広告市場１兆899億円（サイバー・バズとデジタルインファクト実施の国内ソーシャルメディアマーケティングの市場動向調査より、2023年度市場規模推計）となっています。

① ファンビジネスプラットフォーム事業

ファンビジネスプラットフォーム事業は、ファンコミュニティプラットフォーム「Fanicon」の提供及び運営管理を行っております。

「Fanicon」はアイコンとそのファンが集い、アイコンとしての「価値」を提供したいアイコン側のニーズと、アイコンと「つながりたい」というファン側のニーズをマッチングさせるプラットフォームです。また、従来のファンクラブとは異なり、ファンコミュニティのオーナーであるアイコンと、そこに属するファンが共にコミュニティを盛り上げ、共感したファン同士も繋がることが可能なネットワーク効果のある、アイコンとファンのためのサービスです。

Faniconの会員（ファン）はすべて有料会員となっており、ファンビジネスプラットフォーム事業の売上高は、会員より受領するサブスクリプションフィーを売上高として計上するストック型のビジネスモデルと、ポイント課金を売上高として計上するフロー型売上の２つの売上からなりたっております。

会員数を安定的に成長させるためには、新規アイコンの獲得が不可欠です。新規アイコンを獲得するための営業活動は、営業チームに加え、大型アイコン獲得の為にパートナー企業等の協力も得ながら推し進めております。また、既存アイコンにおいては継続的に会員数が増加しており、新規・既存アイコン共に会員増加に注力してまいります。

また、アイコンの解約率は、ユーザビリティを高める開発と機能の向上、アイコンに対する季節や個人イベントに応じた施策の提案やファン体験の価値を高めるカスタマーサクセス機能等により、前事業年度に引き続き低水準で推移しております。

以上の結果、当第３四半期累計期間において当事業の売上高は1,947,668千円（前年同期比10.2％増）、セグメント損失は226,816千円（前年同期はセグメント損失255,536千円）となりました。

② デジタルマーケティング事業

デジタルマーケティング事業においては、国内外の顧客に対して、インフルエンサーを用いた広告施策等の提案及びオンライン広告の運用とコンサルティングが共に高い評価を得ることで、着実に成長させてまいりました。しかしながら、2023年４月に発覚した架空発注や水増発注による不適切な発注による影響が主な原因で、当第３四半期累計期間において当事業の売上高は814,743千円（前年同期比36.6％減）、セグメント損失は152,850千円（前年同期はセグメント利益85,027千円）と対前年同期比で減収減益となりました。

以上の結果、当第３四半期累計期間の売上高は2,762,411千円（前年同期比9.5％減）、営業損失は379,667千円（前年同期は営業損失170,508千円）、経常損失は389,396千円（前年同期は経常損失168,150千円）、四半期純損失は596,316千円（前年同期は四半期純損失204,915千円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第３四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ785,170千円減少し、2,219,225千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少355,269千円、受取手形及び売掛金の減少414,045千円であります。

なお、売掛金には、ファンビジネスプラットフォーム事業及びデジタルマーケティング事業の一部の取引において代理人として純額で収益を認識している売上にかかる売掛金が含まれております。そのため、売上高に対し売掛金の規模が大きく、また、同サービスの売上増に伴い増加する傾向があります。

（負債）

当第３四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ187,527千円減少し、1,627,872千円となりました。主な要因は、買掛金の減少28,895千円、未払金の減少101,520千円、長期借入金の減少16,800千円であります。

（純資産）

当第３四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ597,643千円減少し、591,352千円となりました。主な要因は、四半期純損失を596,316千円計上したことによるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の業績予想につきましては、2023年８月10日に公表いたしました予想数値に変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第３四半期会計期間 (2023年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,842,762	1,487,492
受取手形及び売掛金	716,032	301,987
商品	－	1,638
その他	73,133	65,105
貸倒引当金	△8,046	△3,485
流動資産合計	2,623,881	1,852,738
固定資産		
有形固定資産	210,402	192,431
無形固定資産	－	2,307
投資その他の資産		
敷金	170,110	170,745
長期未収入金	－	74,489
その他	1	1,001
貸倒引当金	－	△74,489
投資その他の資産合計	170,111	171,746
固定資産合計	380,514	366,486
資産合計	3,004,395	2,219,225
負債の部		
流動負債		
買掛金	572,885	543,989
１年内返済予定の長期借入金	24,960	23,040
未払金	250,439	148,918
未払法人税等	8,463	6,130
前受金	702,457	739,500
その他	150,638	81,321
流動負債合計	1,709,844	1,542,901
固定負債		
長期借入金	16,800	－
繰延税金負債	2,073	1,375
資産除去債務	77,620	77,938
その他	9,061	5,656
固定負債合計	105,555	84,971
負債合計	1,815,400	1,627,872
純資産の部		
株主資本		
資本金	758,963	759,086
資本剰余金	948,856	948,980
利益剰余金	△520,398	△1,116,715
株主資本合計	1,187,421	591,352
新株予約権	1,573	－
純資産合計	1,188,995	591,352
負債純資産合計	3,004,395	2,219,225

（２）四半期損益計算書

（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　2022年１月１日 至　2022年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2023年１月１日 至　2023年９月30日）
売上高	3,052,403	2,762,411
売上原価	1,852,005	1,649,368
売上総利益	1,200,397	1,113,042
販売費及び一般管理費	1,370,905	1,492,710
営業損失（△）	△170,508	△379,667
営業外収益		
受取利息	17	18
広告収入	152	49
為替差益	3,104	－
役員報酬返納額	－	2,610
その他	29	169
営業外収益合計	3,303	2,847
営業外費用		
支払利息	945	549
貸倒引当金繰入額	－	11,775
為替差損	－	252
営業外費用合計	945	12,577
経常損失（△）	△168,150	△389,396
特別利益		
新株予約権戻入益	－	1,573
特別利益合計	－	1,573
特別損失		
減損損失	－	11,041
特別調査費用	－	191,434
特別損失合計	－	202,475
税引前四半期純損失（△）	△168,150	△590,298
法人税、住民税及び事業税	2,027	2,027
過年度法人税等	－	4,688
法人税等調整額	34,737	△697
法人税等合計	36,764	6,018
四半期純損失（△）	△204,915	△596,316

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（四半期貸借対照表関係）

（当第３四半期会計期間）

不適切発注事案に関連して発生したものが、次のとおり含まれております。

長期未収入金　　74,489千円

貸倒引当金　　△74,489千円

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期累計期間（自　2022年１月１日　至　2022年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			四半期損益計算書計上額
	ファンビジネスプラットフォーム事業	デジタルマーケティング事業	計	
売上高				
顧客との契約から生じる収益				
外部顧客への売上高	1,767,344	1,285,058	3,052,403	3,052,403
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	1,767,344	1,285,058	3,052,403	3,052,403
セグメント利益又は損失（△）	△255,536	85,027	△170,508	△170,508

（注）　セグメント利益又は損失の合計は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

２　報告セグメントの変更等に関する事項

記載事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自　2023年１月１日　至　2023年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			四半期損益計算書計上額
	ファンビジネスプラットフォーム事業	デジタルマーケティング事業	計	
売上高				
顧客との契約から生じる収益				
外部顧客への売上高	1,947,668	814,743	2,762,411	2,762,411
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	1,947,668	814,743	2,762,411	2,762,411
セグメント損失（△）	△226,816	△152,850	△379,667	△379,667

（注）　セグメント損失の合計は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

２　報告セグメントの変更等に関する事項

当第１四半期会計期間において、従来「法人セールス事業」としていた報告セグメントの名称を「デジタルマーケティング事業」に変更しております。また、当第２四半期会計期間において、従来「Fanicon事業」としていた報告セグメントの名称を「ファンビジネスプラットフォーム事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第３四半期累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

３　報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ファンビジネスプラットフォーム事業」セグメントにおいて、事業用資産に係る固定資産の減損損失を11,041千円計上しております。